



医療の多様性

先日、在宅医療の学会のジエネラリスト養成講座に参加しました。この講座ではパーキンソン病終末期の心不全、抗がん剤治療など多岐にわたったトピックを扱っていました。質疑応答ではパーキンソン病におけるIPS細胞移植についても解説がありました。



松原 清二医師
在宅療養支援診療所「まつばらホームクリニック」院長
総合内科専門医・循環器内科医

・日本循環器学会専門医
・日本内科学会認定医
・認知症サポート医

この講座ではパーキンソン病終末期の心不全、抗がん剤治療など多岐にわたったトピックを扱っていました。質疑応答ではパーキンソン病におけるIPS細胞移植についても解説されました。

ての将来的展望や、現在の抗がん剤治療はゲノム解析の結果に応じて薬剤を選択することもあるなど、最先端の医療の話を聞きました。

また、最近当院では血小板輸血も始めましたが、それが現場で病気のみならず、それに伴う社会問題につながっています。その解決の例えはある肺がんの患者さんは今回ノーベル賞を受賞した免疫チェックボックス。それはIPSC細胞から作られたIPSC細胞への関心は必然的に高まります。

こういった話とは関係がないように思いますが、実はそうではありません。在の血小板製剤も、将来にはIPSC細胞から作ることができるかもしれません。そのためにはIPSC細胞が生まれる必要があります。その解決のためにテクノロジーの変化に目を向けることは、臨床家としては大切であると考えています。

【まつばらホームクリニック】
042-439-1250
西東京市東町 4-14-18-2F
(訪問中のため不在が多い)
■電話対応：午前 9:00～午後 6:00
■定休日：土日（祝日は診療）
■訪問地域：西東京市、東久留米、新座・練馬の一部
まつばらホームクリニック 検索

↑ 診療相談はこちらから